



### 学習の総まとめ「公立高校入試」「学習の診断」「学年末試験」に向けて ～ 令和4年度「0学期」としての取組として ～

感染症拡大防止のための県教委通知により、部活動の中止期間が2月13日(日)まで延長となりました。この間に予定されていた県新人大会(バレーボール部男子)、四国新人大会(剣道部女子)、その他各種競技団体主催の大会等がほぼ中止となり、これまで練習に励んできた子どもたちにとっては非常に残念な状況となってしまいました。



しかし、「物は考えよう」です。3学期は「0学期」とも呼ばれ、次年度の準備を始める大切な時期です。3年生は現在、次年度の進路決定に向けて最後の追い込みをかけています。1・2年生は、「学習の診断」「学年末試験」を控えています。これまでの学習のまとめをするという意味において、今まで部活動をしていた時間帯を家庭学習に充てることができる!と前向きに捉え、復習や練習問題に励んでほしいと考えています。

さて、今更ながらではありますが、ここで「学習の診断」の意味や意義を確認してみます。

- ① 中間試験、期末試験同様、教育課程上に位置付けて実施するものであること。
- ② 文部科学省「学習指導要領」に準拠し、各観点の到達度を把握するものであること。  
➡ 定期試験と異なり、当該学年のこれまでに学習したほぼ全ての範囲から出題されるため、バランスよく学力が定着しているかを把握することができる。
- ③ 進路選択に活用できるよう、目標の達成度を確認するものであること。  
➡ 香川県公立高校入試と同様、1教科50点×5教科=250点満点の試験であり、実際の入試でどの程度の得点ができるかという見通しをもつことにつながる。

そして、細かいところでは以下のような力や習慣が問われることとなります。

ア 例えば国語であれば、「初見の文章」を読み取りながら解答する必要があり、本当の意味での読解力や、日頃からの本や新聞等の活字に接しているかどうかが大切であること。

イ 例えば英語であれば、実践的コミュニケーション能力をはかるために「リスニング」が重視されていること(その一環として1月18(火)には2年生対象に、県教委によるスピーキングテストが実施されました)。

また、今年度からリスニング問題の一部で放送が流れる回数が従前の2回から1回に減るなど、より一層聞き取る力が試されるため日頃の授業が大切であること。

更に、未習の単語でも、文中の文脈からその意味の類推が可能な場合は文中で使用されるなど、より一層読解力が求められていること。



【参考】 英語のリスニング問題は、大学入学共通テストでは配点が200点満点中100点(全体の50%)に拡大され、香川県公立高校入試においても50点満点中12点(全体の24%)の配点となるなど重要視されている。

【参考】 教科書で扱う単語の数は昨年度まで1~3年で1,200語であった。令和3年度からは2,200~2,500語と大幅に増えている。



部活動が中止となり、平日を含め、土曜日、日曜日とご家庭で過ごす時間が長くなります。具体的な目標をもたせたり学習意欲を喚起したり気分転換を図らせたりと、適切にご指導、ご助言を引き続きお願いいたします。

今後、感染症の更なる拡大が予想されます。それに伴い試験当日、濃厚接触や接触、感染の可能性のあるケース等が多くなることも想定され、別室受験には対応しかねる状況になります。

つきましては、大切な試験ではありますが、感染の拡大を防ぐためにも心配な状況にある場合は、「学習の診断」「学年末試験」の受験を控え、健康管理を優先いただきますようお願いいたします。 ※ 出席停止扱い(希望者には、放課後問題配布 → 自宅受験 → 採点(参考点扱い))